

身も心も「熱い」選挙に

ひの たつや
日野 達弥

●NTT労働組合中央本部・企画組織部長

今年の夏も暑く（熱く）なりそうだ。

「39.5度」、日本の5月における観測史上、最高気温が更新された。しかも北海道帯広でのこと。その地域の5月の平均的気温は10度程度らしく、その差約30度。この時期からこんなことでは、真夏になればどうなることか。すでに報道では昨年を上回る暑い夏になるとも言われており、気候変動の影響か、毎年暑さが増しているような気さえる。熱中症対策などの徹底と前年までの教訓をしっかりと活かした対策が必要だ。

思い起こせば、去年の夏は、「大阪北部地震」「平成30年西日本豪雨」「北海道胆振東部地震」「相次ぐ台風の上陸」など自然の猛威によって多くの地域に被害がもたらされた。未だに仮設住宅などでの仮住まい生活を余儀なくされている方々が相当数いらっしゃる。記憶に新しく忘れることのできない貴重な経験を教訓に、「防災・減災」に向けた「気構え」「心構え」「物理的対策」などの準備が必要だ。

こうした中、7月には第25回参議院議員選挙が予定されている。暑さが真っ盛りのなかでの取り組みとなることから、十分な暑さ対策などに気を付けねば。

今回の選挙は、政権選択選挙ではないものの、現政権の“傍若無人ぶり”にストップをかけるための足がかりを築くという意味では、非常に重要な選挙戦であり、野党勢力の結集が必要不可欠だ。

現政権は、世論調査などで国民の多くが反対しているにも関わらず、生活に密接に関わる重要法案を十分な国会審議も行わず強行に採決

するなど、まさしく「国民不在」かつ「国会軽視」の政権運営を繰り広げてきた。つい最近においても、金融庁の審議会がまとめた「老後2,000万円必要」などとする報告書を受け取らないことが問題になっている。大学教授や専門家からなる行政の正式な有識者会議で取りまとめた報告書を世論の反応や選挙への影響を気にするあまり、「政府方針とかい離があるから受け取らない」というスタンスは、言語道断である。

また、イージス・アショアの配備候補地におけるずさんなデータに基づく計画策定も呆れるばかりだ。県民投票で沖縄県民の意思が示されたにも関わらず、「辺野古新基地建設」の強行など、国民生活を完全に無視するかごときの暴挙は、数え上げればきりが無い。

引き続き、現政権や与党勢力にこの国の行方を左右するかじ取りを委ねていいのか、あるいは日本国憲法の原則である「主権在民」、国民が主役の政治に変えていこうとするのか。来たるべき参院選は、この選択につながる極めて重要な選挙戦だ。

仮に野党勢力内で、個々の団体等の個利個略をそれぞれが優先し過ぎれば、国民不在の政治に対する対抗力は分散してしまい、またもや「敗北」してしまう可能性すらある。その結果、「1強多弱」の政治体制は継続し、私たちのめざす社会像に近づくことがますます難しくなることは論を待たない。

「勤労者」「生活者」「納税者」の視点に立った政策の実現に向け、一日も早く私たちが「連合」を中心に力強く結集しなければいけない。

身も心も「熱い」選挙にしなければ――。